

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
基礎ゼミⅠ	<p>これまでの学習方法とは異なり、大学ではより主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。「基礎ゼミⅠ」は知的活動への動機づけを高め、科学的研究のための主体的学習のオリエンテーション機能を果たします。均等に配当された学生(8~10名程度)を一人の教員が担当し、学習の教材は、大学教養の範囲を超えない共通基礎領域の課題とし、担当教員の専門性を通して学習へのモチベーションを高めます。今後、大学での学習活動が円滑に進められるように、ゼミナール形式の授業の利点を活かし、学生と担当教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。</p>
基礎ゼミⅡ 担当者名:平本 幸治	<p>最新の健康科学や自然科学に関する基本的な論説文を用いて英語による情報を収集し、知識として活用する練習を行います。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音等を確認します。CDを利用して音声面の練成を行います。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。</p>
基礎ゼミⅡ 担当者名:河野 稔	<p>「ゼミ」という授業形態は、少人数の参加者がコミュニケーションをとりながらお互いに学び合う、大学での学習の基礎になるものです。この授業では、「基礎ゼミⅠ」で学習した大学での学習スキルを元に、さまざまな文献・資料を調査し、その内容を文書などでまとめて発表し、その発表をもとに他の受講生との議論や意見交換を通じて、より高度な学習スキルの習得を目指します。 扱うテーマは、「情報倫理」です。情報化社会において必要不可欠である、コンピュータやインターネットの利用について、私たちの生活に役立つ側面とトラブルや犯罪などの問題となる側面について着目し、技術的な知識をだけでなく倫理的・法規的な知識も深め、問題点の指摘や解決方法を考えていきます。</p>
基礎ゼミⅡ 担当者名:加藤 和代	<p>深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、喫煙・飲酒・薬物乱用、性の問題行動など身近な健康問題をテーマに調べていくことで、心と体の健康への関心を高めるとともに適切な行動化への意欲を高めることをねらいとします。授業では各自が興味ある課題を、書籍、新聞、Webサイトなどの資料を活用し、現状や課題、提言をレポートにまとめます。また現状や課題そして提言を相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーションの方法、意見交換の仕方なども身につけることもねらいとするため、積極的な参加態度が求められます。</p>

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
<p>基礎ゼミⅡ 担当者名：樽本 つぐみ</p>	<p>近年の健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが、学校体育では苦手なスポーツの代表でもある。そこで、長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングを行うことによってその効果を自分の身体で体得し、長距離走の必要性を理解し、発表し、表現する(加古川マラソン大会出場)ことが目標である。本講義は、卒業必修科目であり、基礎ゼミⅠで学んだ内容をより深めていくことが必要です。</p>
<p>基礎ゼミⅡ 担当者名：矢野 琢也</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者として必要な「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発言する」の作業を徹底して行います。ほぼ毎回レポート課題あり。 ・ 新聞、雑誌、TV、インターネット等あらゆる情報源からスポーツに関するトピックスを選出し、そのニュースを生理学等の知識を交えながら解説します。また出席者同士で討議も行います。 ・ 本ゼミのルールとして基本的に『「わかりません」「意見はありません』』という回答は認めません。考える作業を常時行うのが本ゼミでの授業ですので、理解してください。
<p>健康科学序論</p>	<p>健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のよう に考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカ ニズムによって維持されている。健康科学序論の授業にお いては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを 理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病 予防や健康づくりに役立てる。</p>
<p>健康科学</p>	<p>健康、病気、体力の概念を明らかにし、疾病構造の変化と その理由について学ぶ。生活習慣病の定義やその発症に 関わる危険因子を理解し、その予防に有効な栄養や運動 のあり方を学ぶ。特に運動療法を実施するに当たり、医学 的診断の意義や重要性、検査項目やその基準値について 知る。さらに、高齢化社会の現状を理解し、健康管理の重 要性や健康の維持・増進の方策を学修する。そして健康教 育の必要性も知る。</p>
<p>卒業研究Ⅰ 担当者名：三宅 一郎</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。 (2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。 (3)個別指導をおこなう。

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
<p>卒業研究Ⅰ 担当者名：大平 曜子</p>	<p>健康科学の基礎理論をもとに、これまで学んだ諸科学の知識や技法を参考に、研究という視点で見直し、明らかにしたいことは何かを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究をおこなうこととなりますが、基本的な方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にして、一般的な研究の進め方を学んでいきます。受講者は、卒業研究を健康科学を修めるための集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すとともに、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加えて、主体的に取り組むことが求められます。</p>
<p>卒業研究Ⅰ 担当者名：廣岡 義之</p>	<p>教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。</p>
<p>卒業研究Ⅰ 担当者名：森田 義宏</p>	<p>これまで学んできた専門領域の知識をもとに、自ら興味関心あるテーマを決め、必要な文献・資料を収集し、読み解き、必要に応じて調査もおこない、データを分析し、それらを総合して卒業論文の中間発表ができるまでの力を養う。テーマを設定するため、アイデアの整理を行う。次に、各自テーマを絞り込む。絞り込んだテーマに近い内容の論文を読み、自分の研究計画を立案する。その間、論文の書き方、まとめ方を学び、論文作成に必要な文献資料やデータの収集を行う。データ整理に必要な統計知識、統計パッケージSPSSの使い方を学ぶ。担当教員の指導のもと卒業論文の作成をめざす。</p>
<p>卒業研究Ⅰ 担当者名：徳田 泰伸</p>	<p>(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。 (2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。 (3)個別指導をおこなう。</p>

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
卒業研究Ⅰ 担当者名:木下 幸文	研究実施計画・方法等の立案 研究実施準備(課題に関連する分野の文献調査・予備研究等) 予備実験の実施 研究の中間報告
卒業研究Ⅰ 担当者名:加藤 和代	ストレスの多い現代社会にあっては、子どもも大人も多くの人が心や体に課題を抱えていると言われている。 社会情勢や学校教育の諸問題も心や体の健康に関するものは多い。これまでに学んだ心とからだの健康科学の基礎理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、テーマに沿った基本的な研究方法を学び、計画的に自ら探求していく態度を養うことをめざします。毎回意見交換しながら学びあうことも重視していきます。
卒業研究Ⅰ 担当者名:本多 久夫	これまでの授業ではすべき事がきまっていて、それを教えられた通りに正確に速くできるかどうかの評価された。卒業研究では何を行ったらよいかを自分で考える。こんなおもしろいテーマがあることを4年生が見つけて研究したのか！とまわりを驚かすようなテーマを見つけてほしい。このテーマ発掘能力はこれからの人生で大いに役立つ。
卒業研究Ⅱ 担当者名:三宅 一郎	(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析を行う。 (2)論文の書き方について学ぶ。 (3)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。 (4)個人指導をおこなう。
卒業研究Ⅰ 担当者名:多田章夫	研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
卒業研究Ⅱ 担当者名：多田章夫	<p>研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるか等を考察し結論を導き出す。</p>
卒業研究Ⅱ 担当者名：大平 曜子	<p>研究が進むにつれて研究上の課題も変化してきます。これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった研究の流れの中で、論理的に考察していきます。研究活動において、ゼミ生同士の意見交換は重要な要素です。相互に刺激し合い、ゼミを通じて学び合うことができます。</p> <p>実証科学としての心理学では研究方法に統計的な分析・解析が必要になる場合があります。さまざまな方法を積極的に取り入れ、研究の公共性、科学性、倫理性など、研究として成立するために備えておくべき諸条件を理解したうえで、論文を完成させていきます。</p>
卒業研究Ⅱ 担当者名：廣岡 義之	<p>教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。また学びあうために、他者との意見交換を頻繁におこなう。</p>
卒業研究Ⅱ 担当者名：森田 義宏	<p>自らが決めたテーマに沿って、必要な文献・資料を収集し、読み解き、必要に応じて調査もおこない、資料・データを分析し、それらを総合して卒業論文へとまとめ上げる。</p> <p>授業では、研究計画に沿って、必要な文献や資料やデータを収集し、それらを分析し、関連づけ、論文としてまとめあげる。調査をする場合には、統計学の知識を学び、担当教員の指導のもと統計パッケージSPSS を駆使し、統計解析を行う。</p>
卒業研究Ⅱ 担当者名：徳田 泰伸	<ol style="list-style-type: none"> (1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析を行う。 (2) 論文の書き方について学ぶ。 (3) インターネットを利用し、統計資料の収集を行う。 (4) 個人指導を行う。

◇健康システム学科 主要科目の特長

科目	特長
<p>卒業研究Ⅱ 担当者名：木下 幸文</p>	<p>実験の実施と各指標の測定及び分析 卒業論文の作成 最終成果報告として卒業論文発表会の実施</p>
<p>卒業研究Ⅱ 担当者名：加藤 和代</p>	<p>自らテーマを設定し、取り組み方を見出し、検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があればおもしろみも生まれます。 研究発表を行い研究論文を書き上げることは、大学4年間の集大成であり、最も自分を成長させる場とすることもできます。論文執筆、研究発表を通して卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成をもめざします。</p>
<p>卒業研究Ⅱ 担当者名：本多 久夫</p>	<p>モデルに基づくシミュレーションをコンピューターを用いて行う。この結果を見て、自分の考えた機構の可否を議論する。こうして物事を鋭く見る経験を積む。得た結果を魅力的に正確にわかりよく口頭でプレゼンテーションするとともに、レポートを執筆する。 (1) コンピューターシミュレーションの実施と結果の検討 いったんもっともらしいモデルができれば、これにより対象を理解できるばかりでなく、対象をよりよくデザインする事もできる。 (2) プレゼンテーション 口頭のプレゼンテーションを行い、レポートを執筆する。</p>